

宮本が歩いた

50年前の川間(一)

昭和29(1954)年12月、山村の経済生活の実態を調査

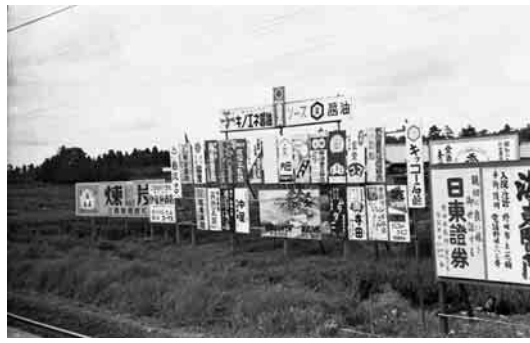
するため、東京営林局長を退官した平野勝二が中心となり、高松圭吉(当時東京農業大学助教授)、外木典夫(当時早稲田大学講師)、河岡武春(当時日本常民文化研究所研究員)などと「財団法人林業金融調査会」が設立されました。

宮本常一は、同会に理事として参加し、昭和43(1968)年3月に解散するまでに、全国の山村調査にも協力しました。同会で調査した山村の

数は、200か所以上にのぼったといえます。

日記によれば、宮本が同調査会の一員として、初めて東葛飾郡川間村を訪れたのは、昭和31(1956)年5月19日のこと、その後、同21日と6月1日にも、川間村へ来ました。

最初の日記には、『5月19日(土)三田(②)東京三田の渋沢敬三郎。東武線越ヶ谷↓野田↓川間。晴。午前、先生(②)渋沢敬三の旅譜の原稿をよみ、午後川間へゆく。東上(武)線で越ヶ谷までのり、そこからバスで野田を経て川間へゆく。村を一通りあるいて見る。夕はんをすましてかえる』とあります。



昭和31年に宮本常一が写した「愛宕駅」の広告看板
／写真提供＝周防大島文化交流センター

当時、越谷から川間へ行く方法として、バスで「愛宕神社」で下車し、関宿方面行ききのバスへ乗り換える方法と、愛宕駅で下車し、野田線に乗り換えて川間駅へ向かう二通りがありました。

宮本が、どちらの方法を使って越谷から川間まで向かったのかは、日記からは読み取ることが出来ませんが、愛宕駅のホームから広告看板を撮った写真が残されていたことから、愛宕駅で野田線に乗り換えて川間駅へ向かった可能性が高いと考えられます。

ところで、なぜ宮本は、川間村を調査の対象に選んだのでしょうか。

5月4日の日記には「…3時に半蔵門へゆき、調査の打合せをする。今月中に千葉川間をやりたい。また今年の調査地もきめたい」とあり、この時点で川間村を調査することを、決めていたようです。

川間村を調査した理由は、昭和32(1957)年6月に全国森林組合連合会と林業金融調査会がまとめた「林業金融基礎調査報告(30)―樹苗篇第6号―(千葉県東葛飾郡川間村)」に答えがありました。

(※文中敬称略・2月1日号へつづく)

【参考資料】別冊太陽「宮本常一」平凡社／「民俗学の旅」宮本常一(講談社)／「宮本常一写真・日記集成」(毎日新聞社)

12月の休日当番医

休日当番医での診療時間
外科・産婦人科＝9時～22時(ただし16時～19時は除く)
内科＝9時～16時(19時～22時は急病センターで行います)

日(曜日)	外科	内科	産婦人科
2日(日)	野田中央病院(☎7122-6161)	小林医院(☎7122-2835)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)
9日(日)	東葛クリニック野田(☎7124-3101)	新村医院(☎7138-2103)	小張総合病院(☎7124-6666)
16日(日)	須藤整形外科(☎7122-1221)	小澤医院(☎7122-3980)	遠藤産婦人科医院(☎7124-7860)
23日(日)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)	豊泉医院(☎7129-3813)	杉崎クリニック(☎7125-1070)
24日(月)	梅郷整形外科クリニック(☎7125-2011)	石井医院(☎7122-2434)	川間太田産婦人科医院(☎7127-1135)
29日(土)	門倉病院(☎7124-5311)	鈴木医院(☎7124-5683)	キッコーマン総合病院(☎7123-5911)
30日(日)	山崎外科内科(☎7122-2359)	花井クリニック(☎7123-3900)	小張総合病院(☎7124-6666)
31日(月)	須藤整形外科(☎7122-1221)	うちだ内科クリニック(☎7127-8181)	小張総合病院(☎7124-6666)

※休日当番医は変更することもあります。受診の際にはテレホンガイド(☎7124-7272:コード6101)、または野田市ホームページ(<http://www.city.noda.chiba.jp/kurashi/04-01-01.html>)で確認してください。

急病センター ☎7125-1188

▼内科(小児科)＝19時～22時まで(毎日)
▼歯科診療＝9時～12時まで(休日)

▼8面で紹介した「朗読グループあいの会」の代表の田中さんのお話です▼「何度も何度も文章を読んで、書き手の意図をよく理解するように心がけています。マイクの向こう側の方にわかりやすくお伝えするために、文章のかたまりに注意したり、表や写真にいたるまで工夫しながら表現しています▼市報の編集に携わる一員として、強心く心を打たれました▼最新の情報をわかりやすくお伝えできるよう、より一層、読み手の立場に立って、一言一句注意しながら書いていきたいと、改めて思いました(を)

編集後記

市の木 けやき
市の花 つつじ
市の鳥 ひばり